

令和5年度 群馬県教育研究所連盟春季研修会

伊勢崎市教育研究所 研究事業の取組について ～昨年度のICT活用研究班の取組を中心に～

伊勢崎市教育研究所 指導主事 森戸 賢多

令和4年度 研究事業「各研究班の取組」

- 英語指導研究班
- ICT活用研究班
- ユニバーサルデザイン研究班
- 温かい絆づくり研究班
- 幼保こ・小連携研究班
- 日本語指導研究班（課題別自主研究班）

伊勢崎市教育研究所 研究事業の進め方

- リーダー会議の実施（年4回）
- 研究所運営委員会の開催（年3回）
- 研究アドバイザー・指導助言者の活用
(大学教授等)
- 研究班だよりの発行・配信（全教職員へ）
- 研究報告会の開催

英語研究班 発表

「Can-Doリストを活用した効果的な振り返りの実践研究」

～パフォーマンステスト等を中心とした実践を通して～

班員

伊藤 亜美

山本 祐輔

柳岡 優花

丸山 瞳

新木 淑子

品川 涼亮

研究テーマ設定の理由

前年度作成したCan-Doリストを活用する上で

- ①連携の工夫
- ②ふりかえり方法の工夫
- ③評価のポイント
- ④小中9年間で目指す子どもの姿の小中での共有

の必要性を感じ設定

研究班全体としての成果と課題

- 各班員がCAN-DOリストにつながる授業実践を実施
- 各班員が研究所だよりで成果と課題を発信
- 成果と課題の共有
- 課題解決の模索
 - △パフォーマンステスト実施の時期や回数の精選
 - △CAN-DOリストにつながるループリックの必要性

これまでの研究を受けて特化したもの…

「ルーブリックの作成」

ルーブリックとは

Can-Doリスト等で設定した到達目標について、見取る授業の場面や活動に応じた児童生徒の姿を具体化したもの

ルーブリックが必要な理由

○妥当性や公平性、整合性を確保するため

- ・5領域3観点を一度の評価ですべて見取るのではなく、焦点化をする必要がある。

- ・評価をする観点の偏りをなくし、評価の客観性を保つ必要がある。

高学年ルーブリック

6学年「U5 We all live on the Earth.」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	4つのテーマ(動物が暮らす場所・食べるものの・環境問題・したいこと)の意味や用法を理解して、発表できる。	相手に伝わるような資料(写真・カード・絵)などを用いて話したり、発表したりしている。	4つのテーマを相手に伝わるように話したり、発表したりしようとしている。
A	正しい英文で発表できている。	相手に伝わるように4つのテーマを資料(カード)に表して、原稿を見ずに発表している。	相手に伝わるように、目線や声の大きさ、話すスピードなどを意識しながら、自分の伝えたい大事な部分を、さらにゆっくりはっきりと発表しようとしている。
B	一部に間違いがあるが、大体の内容を伝えることができる。	相手に伝わるように4つのテーマを資料(カード)に表して、原稿を見ながらでも発表している。	相手に伝わるように、目線や声の大きさ、話すスピードなどを意識して発表しようとしている。
C	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。

まとめ

(Can-Doリストを活用した効果的な振り返り)

CAN-DOリストは最終ゴールを示したもの

CAN-DOリスト達成に向けてルーブリックが必要



今後の方向性

- ・ルーブリックの作成の継続
- ・パフォーマンステスト等を中心とした実践の継続動の関連を意識した
→評価の妥当性、公正性、整合性を高める取り組み



令和4年度 ユニバーサルデザイン研究班

全ての子どもたちが進んで学べる
授業のデザイン

～教育のユニバーサルデザインの視点に
に基づいた工夫と実践～

今井 由季

山田由記子

竹内 由佳

浅川 智史

大畠 聖羅

篠崎 友美

学習面又は行動面で著しい
困難を示す児童生徒の割合

8.8%

2022年12月
「通常の学級に在籍する特別な教育
的支援を必要とする児童生徒に關す
る調査結果」より

目指す子供像

「進んで学習に取り組む児童生徒」

「全ての子どもたちが進んで学べる」ための手立て

研究のねらい

児童生徒のつまずきや困難さの把握、つまずきや困難さに応じた手立て、学習上の支援のポイントについての研究

(1)児童生徒のつまずきや困難さの的確な把握と 具体的な支援の検討

- ・児童生徒の特性の理解
- ・教育のユニバーサルデザインの基礎研究

(2)全ての子どもたちが進んで学べる授業の実践

- ・児童生徒の特性や困難さに応じた支援の手立てを
生かした授業のデザインの研究、実践、検証

研究の成果

～全ての子どもたちが進んで“学べる
授業のデザインにするために～

- ・児童生徒の困り感や特性について、その背景と支援策を探り、8つのタイプに整理することができた。
- ・児童生徒の実態を捉え、それぞれに合った手立てを考えることができた。
- ・教育のユニバーサルデザインの視点に基づいて、授業の流れや活動の方法を統一することで、子どもたちが進んで学ぶ姿を引き出すことができた。

研究の課題

～全ての子どもたちが進んで“学べる
授業のデザインにするために～

- ・教材教具、ワークシート等の共有化
- ・職員間で、児童生徒に応じた有効な手立てを共有し、統一すること
- ・全員ができる授業を目指すことと、上位群の学習意欲を確保することの両立
- ・授業中にできたことを、テストやその他の場面で応用して力を発揮するための工夫
- ・児童生徒の発達特性や困り感に応じた手立てをさらに積み上げ、発信していくこと

一人一人の力を発揮する自治的集団の育成 ～成功体験の積み重ねを通して～

1. 研究のねらい及び内容

2. 実践発表

- ①伊勢崎市立殖蓮小学校
- ②伊勢崎市立宮郷小学校
- ③伊勢崎市立第三中学校
- ④伊勢崎市立殖蓮中学校
- ⑤伊勢崎市立境西中学校

小学4年 伊藤 宏康
小学6年 高橋 千夏
中学2年 白井奈々江
中学1年 鈴木 香穂
中学1年 駒倉 良樹

3. 研究の成果と課題



温かい絆づくり研究班

一人一人の力を發揮する自治的集団の育成
～成功体験の積み重ねを通して～

- 学級活動の計画的・継続的実施
- 係活動や委員会活動に主体的に取り組ませる
- 行事等で目的を明確化⇒達成感

成功体験の積み重ねで 大切なこと

- ①安心・安全の雰囲気(自己有用感)
- ②児童生徒が自信をもつ(自己効力感)
- ③目標を設定し、イメージする(自己決定感)
- ④自分にとって望ましい結果(自己信頼感)



一人一人の力を發揮する自治的集団の育成
～成功体験の積み重ねを通して～

1年間の成果と課題

- 学級活動や行事を児童生徒に主体的に取り組ませるための手立てを工夫したことでの、児童生徒は達成感や充実感を味わい、成功体験に繋がり、自分たちでできるという自信を持つことができた。
- 主体的に取り組む活動を通して得た自信をもとに、所属する集団の諸課題に対して、自分たちで決めたことをお互いに声を掛け合って解決しようとする姿が見られた。
- 一人ひとりの成功体験が自治的集団を育成することにつながった。
- △全ての児童生徒が主体的、積極的に参加し、自信を持つことができたわけではない。より多くの児童生徒にとって成功体験となるように、幅広く、多様な手立てを工夫する必要がある。

今後に向けて

一人一人の力を発揮する自治的集団の育成
～成功体験の積み重ねを通して～

- ◎児童生徒主体の学級会を計画的・継続的に行い、その意義や有効性を自校に発信していく。
- ◎hyper-QUの実態をより踏まえた児童生徒及び集団理解に基づいた学級経営や学級活動を行い、その成果や課題を発信する。

令和 4 年度

幼保こ・小連携研究班

幼保こ・小の滑らかな接続を図るための心のサポート

～「自分らしさ」を表現できるようになるための
教師のかかわりに視点をあてて～

和田 みのり 羽佐田 梨乃 高野 佳子 村上 智貴 根岸 みなみ 細谷 有香梨

テーマ設定の理由

入学時の段差

指導形態

環境

教師のかかわり方

「自分らしさ」とは

- 不安な様子がなく安定した心の状態
- 自信をもって主体的に行動



どのように教師がかわっていけばよいか

研究の内容

- 1 小学校と幼稚園の違いを知る
- 2 保育・授業実践を行う
- 3 入学時の引継ぎ方について検討する



<実践>入学に期待がもてるようにな ~「学校ってどんなところ？」のパンフレット作成~

4がつから、みんなは しょうがくせい！
でも…
しょうがっこうって、どんなところ なんだろう？
みんなで、しょうがっこうの
だんけんに いってみよう!!

おおきなてれび
みたいたいがるよ!!

これをみながら、
わべんぎょう するんだって

なんざるは、
どうしの
くわーい

といれ

じょうがっこうの
といれ
校ごはんを
みんなに
むかわいてるよ

おおきなてれび
みたいたいがるよ!!

なんざるは、
どうしの
くわーい

ても迷わずに
あらわうね!!

引継ぎ表の改善



友達関係での配慮	生活面での配慮	家庭への配慮	その他(特記事項)

友達関係	生活面	家庭に関すること	個別に必要な支援	主たる言語が日本語以外の場合
<input checked="" type="checkbox"/> リーダー性 <input checked="" type="checkbox"/> 誰とでも仲良くできる <input type="checkbox"/> 優しい <input type="checkbox"/> 一人で遊ぶことが多い <input checked="" type="checkbox"/> 困った時に先生に言える	<input checked="" type="checkbox"/> 集団行動ができる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の意見を言える <input type="checkbox"/> 欠席が多い <input type="checkbox"/> 遅刻が多い <input type="checkbox"/> おしゃべりが多い	<input type="checkbox"/> 協力的 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者会役員 <input type="checkbox"/> 配布物を読まない <input type="checkbox"/> 集金に課題あり <input type="checkbox"/> 忘れ物が多い	・動きが良く、ふらふらしてしまうが、予定表を見て、やることが分かると待つことができる。 ・車が好きで、車の話題を出すと話を聞こうとする。	国籍： 言語： <input type="checkbox"/> 日本語で会話できる 保護者とのやりとり <input type="checkbox"/> 父：日本語が可 <input type="checkbox"/> 母：日本語が可 <input type="checkbox"/> 配布物の翻訳が必要 <input type="checkbox"/> 面談は通訳が必要
図での姿 ・遊びの中心となり、元気に活動できた。	図での姿 ・片付けができる。 ・鳥の回りの態度ができる。	その他 保護者会長を務めていた だいた。とても協力的。	<input type="checkbox"/> アレルギー対応あり <input type="checkbox"/> 特になし	

※友達、生活、家庭については、配慮を要する場合のみ記述

※「図での姿・その他」の欄には、チェックボックスに無い引継ぎ事項を入力。

※「兄姉等」の欄は、本年度の情報を入力。



<研究員の意識・子どもの姿の変容>



研究員の意識の変容

- ・子どもの自信につながるような「認める」「褒める」などの言葉かけを意識するようになり、子どもの話に耳を傾け、心に寄り添うことを心掛けるようになった。
- ・休み時間だけでなく、授業中や生活の中で一人一人に言葉をかけ、コミュニケーションをとることが増えた。
- ・子どもたちに経験させたいことの教材・題材など見直し、一人一人が主体的に参加できる授業作りを考えるようになった。
- ・一人一人の個性を受け止め、ありのままを認めて自己肯定感を育むかかわりをするようになった。
- ・入学に向けて期待をもたせるような働きかけが増えた。

子どもの姿の変容

- ・無理せず自然体でいるようになり、笑顔が多くみられるようになった。
- ・教師に話しかける子が増え、周りの様子をうかがって不安そうにしていた子も積極的に行動するようになった。
- ・自信をもって発言したり、いろいろなことに挑戦したりしてみようという姿が見られた。
- ・子ども同士で互いの良さを認め合う姿が増えてきた。
- ・入学に向けての話をするようになり、楽しみにしている様子が見られた。



<成果>

幼保こ・小の滑らかな接続を図るための心のサポート
～「自分らしさ」を表現できるようになるための教師のかかわりに視点をあてて～

- 1 信頼関係が築けている教師と安心できる場に支えられることで、思っていることや考えていることを素直に表現したくなり、「自分らしさ」を表現できるようになることが分かった。
- 2 「自分らしさ」が育まれると、子どもから教師へ笑顔で話しかけることが多くなり、自己肯定感も高まり、主体的に行動し、「やってみよう」と挑戦する姿が増えた。また、友達のことを認める姿も見られ、子ども同士で良さを認め合う姿が増えてきた。
- 3 入学後、保護者も子どもと同様に教師との距離感を感じ不安なことが分かった。幼稚園の保護者にアンケートを取り、低学年の先生に回答を頂くことで、小学校の教師を身近に感じることができた。また、連絡帳の活用の工夫が、子どもだけでなく、保護者の安心感にもつながることが分かった。
- 4 幼児が小学校に対して期待がもてるよう、市内の幼保こ施設に「学校ってどんなところ？」の資料を配布することで、幼児が入学を楽しみにできるきっかけとなった。





<課題>

幼保こ・小の滑らかな接続を図るための心のサポート

～「自分らしさ」を表現できるようになるための教師のかかわりに視点をあてて～

- 1 「自分らしく」いることと「集団生活」を送るということの間で、特性の強い子（動きが良い、こだわりがある等）に対して、教師の意識のもち方や支援の仕方についてどのようにしていくか。
- 2 幼保こ・小の教師同士のつながりが薄いので、交流を深められるようになるにはどのような仕組みが必要か。
- 3 幼保こから小学校への引継ぎが3学期に行われるが、担任は4, 5月の入学後の様子を見て、幼保ことの担任からの情報がほしい。引継ぎが現場でもっと生かせるようにするためににはどのような方法があるか。

令和4年度 課題別自主研究班

日本語教育研究班

研究主題

日本語を使って生き生き学び、 夢や希望をもった児童生徒の育成

—「わかる」「できる」「だいじょうぶ」を目指した指導・支援を通して—

田口 健治 佐藤 康 前原 美香 内門 香代子

横田 こずえ 嶋崎 雅子 中嶋 知恵子 松村 英樹

伊藤 里恵子 瀬戸 晃枝 長沼 邦彦 フレドリックス 寿代

研究内容

①在籍学級との連携

- ・日本語教室での運営上の課題解決
- ・日本語指導の具体化（教材等の工夫、ＩＣＴの活用など）
- ・日本語教室と在籍学級等が連携した授業実践

「わかる」「できる」「だいじょうぶ」を目指した指導・支援

②キャリア教育（進路指導）

- ・高校進学に関する情報を進路通信「MIRAI」として発信

児童生徒の夢や希望をはぐくむための支援

進路通信「MIRAI」

MIRAI 日本語版



高校生になるために必要な経費を知ろう

日本の高校に通うためには、中学校までより多くさまざまな必要経費がかかります。まず、入学試験のために受験料が必要です。また、入学の際にはある程度まとまったお金が必要です。さらに、通い続けるためにも継続的に資金が必要です。お金が準備できずには高校進学をあきらめたり、途中で退学をしなくてはならなくなったりしないように、早めに情報を知り、資金の準備（貯金）をすることをおすすめします。

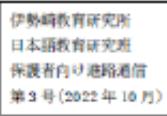
なお、このデータはあくまでも現時点（2022年）での情報でありおよその目安です。また、各学校ごと、学科等によっても大きく異なりますので、各学校ごとのリーフレットやホームページをご覧ください。

2022年版	群馬県公立高校	私立高校（全日制）	
項目 共通する内訳等	群馬県公立高校	（学校ごとに大きく異なる）	
受験料	一回につき￥2,300	一回につき￥950	
		￥10,000～￥20,000	
		試験は何回があるが、1回払えば何度も受けられるところもある。（※学部試験で払うと一概試験も受けられる）	
入学する時	￥60,000 ・入学金 ・教科書・教科書代 ・制服・体操着など ・専門学科は実習費など	￥20,000 ～￥70,000	￥250,000～￥100,000 ・施設費
授業料（年間）	￥118,000 ※1	￥32,400 （￥9,000×12ヶ月）	￥264,000～
入学後（年間）	￥100,000 ・通学費（電車等）・文具 ・昼食代・部活動経費 ・生徒会費・PTA会費 ・修学旅行積立金など	￥40,000 ～￥80,000	￥300,000～
その他		全日制の金額より低い （制服がないなど）	などの費用が異なることがある。

※1…授業料は就学支援金制度により、公立高校の授業料は無料になります。私立高校でも、授業料の負担を減らすことができる。支援金は子の人数や県の働き方で変わる。入学後、高校を通じて申し込むと、支援金は学校に入るので、公立は授業料を払う必要がなくなり、私立は差額を学校に支払う。

奨学金や教育ローンを上手に使うには

高校に通うための資金が不足するときは、奨学金や教育ローンを使うことも考えられます。奨学金は生徒本人が、教育ローンは保護者が資金を受ける対象です。いろいろな奨学金や教育ローンがありますが、それぞれにさまざまな条件があります。中学3年生になったらすぐに担任の先生に相談しておきましょう。また、これらは将来返済するものなので、借り手に済むようにまずは将来設計をし、早いうちから貯金をするなどして資金の準備をするとよいでしょう。



中学校卒業後のことを決めるための道のり

中学校卒業後の進路を決めるのは、「中3生になってから」ではありません。自分の特性や夢、目標、やりたいこと、それを実現するために考えることやしなくてはいけないことを知る必要があります。中学校卒業後の進路について親子で話し合っていきましょう。2024年度の公立高校入試（2022年度の中学校3年生）から、これまでと制度が変わります。金額はまだ公表されていませんが、これまで前年度比・後年度比と2回チャンスがありましたが1回になります。また、1・3年生の成績も大切ですので、中間テストや期末テストも大事です。

2023年度、ある中学校の進路に関する学校行事の例

学年	学期	○定期テスト	□週間に開催する学習	○保護者が関わる行事
	また月	＊3年生の特別テスト	＊高校に直接関係すること	＊その他
中1	1学期	○中間テスト	○期末テスト	
	2学期	○中間テスト	○期末テスト	□自己分析・適性検査
	3学期	□成績表	○期末テスト	○三者面談
中2	1学期	○中間テスト	○期末テスト	
	2学期	○中間テスト	○期末テスト	□職場体験学習
	3学期	○期末テスト	□上級学年説明会	○親子進路学習会
中3	4月	＊第1回進路希望調査		
	5月	＊第1回復習テスト	○中間テスト	
	6月	＊第2回復習テスト	○期末テスト	
	7月	＊第3回復習テスト	＊第2回進路希望調査	
	夏休み	○三者面談	＊高校見学・説明会・体験入学への参加	
	8月	＊第1回実力テスト	＊第3回進路希望調査	
	9月	＊第2回実力テスト		
	10月	○中間テスト	＊第3回実力テスト	△進路説明会
	11月	＊第4回進路希望調査	○三者面談	○期末テスト
	12月	＊第4回実力テスト	＊私立高校の面接が始まる	
	冬休み	＊私立高校の入試が始まる		
	1月	＊私立高校の合格発表が始まる	＊私立高校の入学手続きが始まる	＊公立高校の出願
	2月	○期末テスト	＊公立高校の入試	
	3月	＊私立高校の合格発表・入試手続き	＊再募集・入試・発表（卒業式後）	

○定期テスト（中間アテスト・期末アテスト）…それぞれの学期の成績に関わるテスト。

＊復習テスト…12年生の学習内容のテスト。

＊実力テスト…1～3年生の学習内容のアテスト。高校入試の範囲になり、このアテストの点数が進学希望先を決めていく手立ての1つになります。

△三者面談…担任・保護者・生徒の3人で、日々の生活や学習の様子を確認し、改善すべきことがあればそれを話し合う。

＊3年生11月には、受験する学校を決める。

＊進路希望調査…希望を元に、情報を集めたり学校見学したりしながら、具体的に受験する学校を絞っていく。

＊高校見学・説明会・体験入学…最初から活動をする人と話を chaud の中でまとめるので、実際に自分の目で見てくる。

成果

○「研究班だより」として情報発信

実践や、日本語教育に関する研修会等の情報、日本語教室設置校において必要な名簿等の例示や支援助手との連携のあり方についてなど

市内全ての学校の教職員に日本語教育の理解を促す

○ICT活用・学校行事等との連携

「わかった」「できた」等、自信をもって学びに向かう意欲

○在籍学級へつなぐ

教科学習（先行授業の実施等）・生活に必要な日本語指導

在籍学級と日本語教室で、学習を効果的につなぐ

○進路通信「MIRAI」の発行

進路情報を4か国語で発信

課題

- 日本語教室と在籍学級等の連携をさらに推進
- 日本語教室設置校の課題収集→課題解決
- 進路通信の継続→活用方法の検討